



## オタマジャクシの足は、<sup>あし</sup>前足が<sup>まえあし</sup>先に<sup>さき</sup>できるの

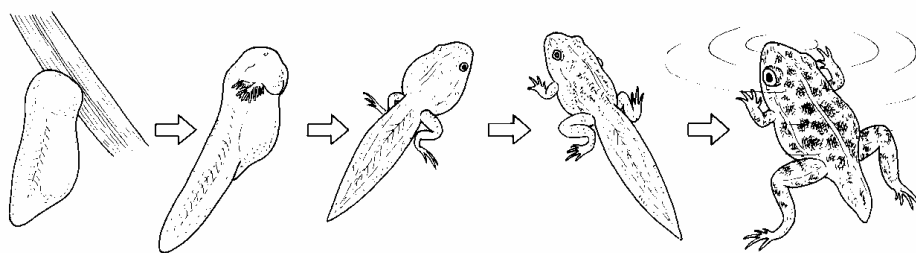
### まず、<sup>うし</sup>後ろ足が<sup>あし</sup>生<sup>は</sup>える

カエルの<sup>たまご</sup>卵は、およそ<sup>さんらんご</sup>産卵後5～10日ぐらいで、オタマジャクシになります。かえったばかりのオタマジャクシは、<sup>め</sup>目も<sup>くち</sup>口もなく泳ぐこともできず、<sup>みずくさ</sup>水草などにぶら下がり、<sup>たまご</sup>卵のときの<sup>えいようぶん</sup>栄養分で生きています。間もなく、<sup>め</sup>目、<sup>は</sup>歯のある<sup>くち</sup>口、しっぽなどができて、自由に泳げるようになり、「も」や、<sup>し</sup>死んだ<sup>さかな</sup>魚などをえさにして<sup>そだ</sup>育ちます。やがて、しっぽのつけ根の<sup>ね</sup>所から、<sup>ちい</sup>小さい<sup>うし</sup>後ろ足が<sup>あし</sup>生えてきて、だんだん<sup>おお</sup>大きいカエルの足になっていきます。

### <sup>ひだり</sup>左前足、<sup>みぎ</sup>右前足の<sup>じゆん</sup>順で<sup>で</sup>出てくる

そのうち、<sup>ひだり</sup>左の前足が、えらのあなからとび出してきます。つぎに、<sup>みぎ</sup>右前足が、えらぶたの<sup>ひ</sup>皮ふを<sup>やぶ</sup>破って出てきます。<sup>まえあし</sup>前足は、<sup>ひ</sup>皮ふの下で<sup>した</sup>生長してから、<sup>おもて</sup>表に出てくるところが、<sup>うし</sup>後ろ足とちがっています。

<sup>まえあし</sup>前足もそろると、オタマジャクシは、<sup>は</sup>歯がぬけてなくなり、<sup>くち</sup>口や<sup>ちよう</sup>腸も<sup>へん</sup>変化し、えら<sup>こきゆう</sup>呼吸から<sup>はい</sup>肺呼吸に<sup>か</sup>変わり、カエルの<sup>からだ</sup>体に変わっていきます。しっぽも小さくなり、なくなってしまいます。こうなると、<sup>すいちゆう</sup>水中では生きていけなくなるため、<sup>りく</sup>陸に<sup>あ</sup>上がり、えさの<sup>なが</sup>ハエや<sup>した</sup>力などを<sup>なが</sup>長い舌でとらえる、カエルの生活になります。(監修・今泉 忠明)



カエルの手足の出方

